

ブック村だより

本学コレクション紹介(11)

K.マルクス『資本論』第3巻, 初版 (1894)	高橋 哲雄 (1)
特集 ドイツ図書館体験記	新宮 潔 (2)
ぶっくす・なう	(4)
『九杯目には早すぎる』	谷岡 一郎
『日本流通マーケティング史——現代流通の史的諸相』	中野 安
『サザエさんと株価の関係——行動ファイナンス入門』	佐和 良作
『未来への地図：新しい一歩を踏み出すあなたに』	下山 晃
学生の声	(6)
レファレンスに関するお知らせ	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



イーストボーン。この沖にエンゲルスの遺灰は撒かれた

本学コレクション紹介(11) K.マルクス『資本論』第3巻, 初版 (1894)

『資本論』第3巻 (1894) も第2巻につづいてエンゲルスの編集によって完成した。

エンゲルスは懐の深い人物だった。マルクス一家の生計を助けただけでなく、マルクスが夫人の出産中にメイドに手をつけ妊娠させたときも、自分が引かぶって親友の家庭平和に貢献した。マルクス夫人の没後も秘密を守り通し、臨終間際になって、外から事実を聞かされ、どうしても信じられずに駈付けけたマルクスの次女に初めてそれを明かした。メイドは引き取り、その子にも遺産

を残した。

主義として結婚制度を認めなかったのに、死期の迫った内妻の懇望で結婚式を挙げた。詩人バーンズの血を引くと信じていた妻に付き合っ、スコットランドに系図探しの旅に出たりもした。醜悪巨大な墓を建てられたマルクスと対照的に、遺灰は海に撒かせスマートに身をくらませた。

こう書いてくると人間が出来すぎていて、却って引き立て役(?)のマルクスに同情する人が出てくるかもしれない。(名誉教授 高橋 哲雄)

今回は本学教授 新宮 潔先生に、シュトゥットガルト大学へご留学時の「図書館体験記」をお寄せ頂きました。

午前10時に関西国際空港を飛び立ち、フランクフルトでの乗り継ぎを経てシュトゥットガルトに到着したのはその日の午後6時ごろであったろうか。無論ドイツとの時差が8時間であることを計算に入れなければならないのだが、それまで北回りや南回りのヨーロッパ路線しか経験していなかった身には、あまりにあっけない旅であった。朝に日本を出て、夕方にはドイツのホテルに身を横たえているという感覚である。翌日、復活祭を控えた教会から響く重厚な鐘の音で目を覚まし、朝食を済ませた私がまず目ざしたのは1年間お世話になるシュトゥットガルト大学の建物であり、何よりもその図書館に足を踏み入れることであった。市内中心部に近い旧「キャンパス」では、市立公園の中やその周囲に大学施設が点在しており、市民生活の中に溶け込みながら大学が機能しているようだ。塀やフェンスで囲まれていないヨーロッパの大学は、街角で見られる学生風の若者の密度がその存在を感じさせるだけである。日本の大学キャンパスに見られる、ものものしい門や塔といった建築物があったとしてもそれらは大学の建物ではなく、中世以来の旧市街を外部と隔てていた城壁の名残なのである。

さて、「大学図書館」と表示された建物は地上2階建て、漢字の「国構え」、つまり建物が回の字に囲んだ中に庭があり、そこに「桜」と見受けられる木が花を散らせながら小さな池の上に枝を広げている。「来年、もう一度この花が咲く頃までにどれくらい本が読めるやろか…」と思いながら、私は書庫をあちこち巡って文献のそろい具合を確かめていた。つまり大学図書館の出入りはま

ったく自由で、日本の民族衣装に身を包んだ東洋人の私が何を問われることもなく内部を見て回っているのだ。そもそも入口のすぐ左に用意された各種新聞を、閲覧用の長机で読んでいるのは明らかに暇そうな町のおっちゃんたちである。日本風に言えば「社会人学生」、つまり高等学校卒業後の入学ではない学生の多いドイツとはいえ、また学生の在学期間の長いドイツではあるけれども、明らかに学生ではない人たちの姿がよく目につく。そう、ほとんどの大学が税金で維持され、つい最近まで授業料の導入が見送られていたドイツでは、大学も公共施設のひとつであり、図書館も国立、州立、市立の間で学生と市民が共通に利用することが可能なのである。さすがにどこの誰とも分らぬ者に本の貸し出しはしてくれないが、閲覧や複写は問題なくできる。住所が決まって、滞在許可証が発行されれば借り出しも可能になる。むろん大学関係者は貸し出しの期間や数の面で優遇されるが、図書館を利用する権利は大きく開かれており、他の図書館の文献を取り寄せてもらうことも可能である。開館時間は大学の講義が始まる午前8時から夜の9時までとかなり長い。



また、大学図書館とは別に学部や学科が専門の図書館（室）を備えており、こちらの方は原則大学関係者の館内利用に限られている。私は研究室への文献の持ち出しを認めてもらったが、シュトゥットガルトでは高層といえる学舎内のドイツ文学科図書館の居心地、特に丘の斜面に広がるブドウ畑の眺めが良かったので、この特権を利用せず、できる限り窓際の机に席を占め、書物の世界と目の前の風景の対比を楽しみながら過ごすことが多かった。この学科図書館の開館時間は午前8時から午後8時までとなっていた。さらに、シュトゥットガルト大学には市内中心部とは別に、理工系を中心とした広大な施設が郊外にあり、こちらの図書館ははるかに規模が大きく、開館時間も午前8時から午後10時までということである。文学関係の資料を求めていた私としては、何度かその前を通る機会があったものの、残念ながらそこに足を踏み入れることがないままに帰国の日を迎えてしまった。

ところで、人口約70万人とはいえシュトゥットガルト市はバーデン・ヴュルテンベルク州の首都であるため、旧「キャンパス」の大学図書館よりはるかに立派な州立図書館が旧市街を隔てた町の向こう側にある。ただし、文献目録は完全に大学図書館とリンクしており、相互貸し出しが可能となっている。人口の半分以上が学生である「大学町」ゲッティンゲンでは、大学図書館が州立図書館を兼ねていたことを思い出す。大学図書館が同時に公共図書館であるということは、このことから理解できるように思う。そして今回のわが「図書館体験」にとって最も重要な存在が、このシュトゥットガルトの郊外にあるシラーの生まれ故郷、マールバッハの国立シラー博物館とドイツ文学文書館である。この文書館の特徴は、書籍以外の文献、とりわけ手稿、いわゆる作家自身の「生原稿」を豊富に保管・管理しているという点であろう。シラーの銅像が建つ丘には、現在「文

学」をテーマとした新たな建物が建設中であり、その場所全体を通してドイツ文学のための「空間」が出来上がろうとしている。19年ぶりに訪れ、仕事机も与えてもらったこの図書館の閲覧室は実によく工夫されていると思った。書物に集中できる時間と、目や体を休めて文学の空気に入る時間とを過ごす事のできる空間が実現されていると言えいいのだろうか。ネッカー川を見下ろす丘の上からの眺めも、館内の図書や文献目録を探しながら歩く時間も、ふたたび机に向かう気持ちを高めてくれるのである。図書館といえば、静かに本を読むための空間であることに間違いはないのだが、活字に疲れた目や体にふたたび活字に向かわせるエネルギーを与える力がそこに存在することが大切であると実感したのは、本を読む力に衰えを感じつつあるわが年齢のせいばかりとは思えない。そういう意味で、本学図書館からの眺望は抜群であり、読書に疲れた目を生駒の山並みに向けてみれば新たな読書エネルギーが湧いてくるのではないだろうか。図書館は見た目も「読む目」にとって大切なのである。



シュトゥットガルト大学図書館

『九杯目には早すぎる』

(双葉社, 2005.11)
蒼井 上鷹 著

バーやお酒に関係の深い設定ばかりの短編集で、蒼井上鷹という新人のデビュー作。題名はミステリー・ファンならおなじみの、ハリー・ケメルマンによる『九マイルは遠すぎる』をもじったものだが、この表題作はショート・ショート、たいした出来ではない。ちなみにケメルマン（大傑作！）を読んでいない人のために説明しておく、通り過ぎる2人が「歩くには九マイルは遠すぎる」、「雨の中なら尚更だ」という会話を聞いただけで、重要な事件を解き明かすという話。読んでいないなら読みましょう。いわゆる安楽椅子モノの古典・スタンダードです。

この短編集は、身近で小市民的な新しいネタを題材としている。ある日、寿司屋に来た客が、数

種のネタをドンブリに入れ、上から茶碗蒸をぶっかけて、グチャグチャとまぜ始めた。彼は何のためにこんなことをしたのか……。冒頭の「大松鮪の奇妙な客」（日本推理作家協会賞・短編部門ノミネート作品）はこんな不思議な謎からスタート

する。電子媒体のストーカーを扱った「私はこうしてデビューした」、その他とんでもないジレンマの渦中でもがく「キリング・タイム」（小説推理新人賞受賞作品）、ケータイの着メロが重要な鍵となる「タン・ボタン！」など、この手の短編集としてはなかなかの粒ぞろい、というより快作ぞろいである。この新人からはこれから目が離せませんぞ。
(学長 谷岡 一郎)



『日本流通マーケティング史 ——現代流通の史的諸相』

(中央経済社, 2005.11)
小原 博 著

日本では一般に、流通・マーケティング関連の歴史的研究は活発とはいえなかった。しかし最近10年余の間に状況がやや変わり始めた。欧米起源の関連理論や学説の寿命が短くて「ナマ物」ないし「ファッション」化しており、「輸入業者」としてそれらを追いかけ紹介することのむなしさ、あるいはそれへの反省が、歴史的研究の一定の重視をもたらしているのかもしれない。

しかし著者は「にわか」歴史屋ではなく、研究者としてスタート以来、一貫して歴史的研究を進めてきたこの分野のパイオニアであり、『マーケティング生成史論』（1991年）を初めとする幾つかの貴重な成果をあげてきた。その著者が今回、本書で取り上げた基本的テーマは、カルフルの失

敗やウォルマートの苦闘によっていっそうその独自性が注目されている日本型流通システムや日本型マーケティングの形成過程の解明である。しかし個別テーマ（各章）はきわめて多様で、「よろず屋」論や「いろいろブランド史」の考察から、日本の商業観や流通学史論、さらには小売業態の形成と変遷の日米比較、リポート等の日本の伝統的取引慣行、化粧品・医薬品分野における流通支配と価格維持、日本型マーケティングの源流、その他に及ぶ。各章は独立しているので、君たちは興味のあるテーマを選別して読むことができる。
(総合経営学部 教授 中野 安)



『サザエさんと株価の関係 ——行動ファイナンス入門』

(新潮新書, 2006.2)
吉野 貴晶 著

「サザエさんの視聴率が上がると株価は下がる」ときくと、両者の間に一体どのような因果関係があるのだろうかと思うに違いない。「何いうてんにゃ」といったほうが適切かもしれない。この関係をとく鍵が、本書の副題にもなっている「行動ファイナンス」である。経済学では、人々は合理的に行動するというを前提にして、議論を進める。しかし、この前提が必ずしも正しいとはいえない。人々の非合理的な行動を説明するのが「行動ファイナンス」である。

日曜日の夕方、サザエさんを見ていると、あと12時間したら起きて会社に行かねばならない、ということに気が付いて憂鬱になるケースが多い。しかしまだ、サザエさんと株価との関係は明確で

はない。筆者は「サザエさんを見ているということは、外出をしていない可能性があり、それは景気・株価にはネガティブだ」と分析する。

もう一つ紹介する。宝くじの売り上げと株価の関係。これも何の関係もなさそうである。しかし、現実の世界が厳しいとき、すなわち景気が悪いとき、人々は「宝くじが当たれば、とっとと仕事を辞められる」という気持ちになって、確率のきわめて低い宝くじに手を出す。そこで、筆者は宝くじの売り上げと株価は逆相関の関係にあると考える。

筆者のように、株価とさまざまな事象との関係について、ユニークな発想することができるようになれば、株式投資で大成功するに違いない。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『未来への地図： 新しい一歩を踏み出すあなたに』

(朝日出版社, 2005.4)
星野 道夫 著

大商大は今年も大勢の新生を迎えました。2年生以上の皆さんも、新しい年度を迎え、きっと新たな決意や希望に胸をふくらませていることと思います。そこで、今回は、そうした皆さんには是非とも読んでいただきたい本を取り上げました。

ぼくが大好きな写真家の星野道夫さんの講演録です。星野さんが何時間も、何日間も、何ヵ月間も、そして何年間もかけてアラスカの原野で撮りつづけた、宝石のようなカラー写真もたくさん収録されています。どの写真も、じっと見ていると、星野さんの息づかいと、アラスカの大自然の息吹きと、そして宇宙の鼓動とが同時に聞こえてくるような、すばらしい感動を与えてくれます。1枚の写真を見て、「あッ！」と思った瞬間に、

体がぶるぶる！と揺さぶられてしまうことになるのです。

「——先生、ホンマかいな？」と言われそうですが、ほんまにホンマなのだから仕方ありません。「ウソや！」とおっしゃる方は、商大図書館にたくさん置いてある星野さんの他の写真集にも目を通して、それからもう一度この本を読んでみて下さい。写真が言葉を輝かせ、そして言葉が写真を光らせている本だということに、きっと、たちまち気付くことになるでしょう。一瞬の中に永遠があり、今の自分の生き方の中にこそ、大切に大切に過ぎる「何か」が生まれてくることに、たちまち驚くことになるはずです。この本は、みんなの宝もの、なのです。

星の道 君も 輝く時が来て 響太郎

(総合経営学部 教授 下山 晃)



学生の声

図書館では、学生の皆さんの声を反映する取り組みの一環として、資料のリクエストを受け付けています。昨年度におけるリクエスト制度の利用状況をお知らせします。

申込状況

申込件数…138件 購入件数…108件

<購入謝絶の理由>

理由	件数
所蔵あり	10
購入対象外 ※	9
品切れ	8
類書あり	2
図書の特定不能	1
合計	30

※漫画類（リクエスト受付対象外）など

<分野別内訳冊数>

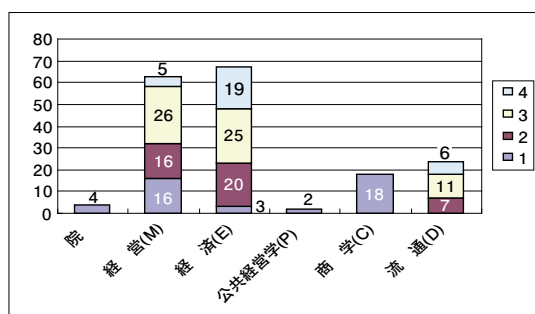
出版	1	福祉	1	奇術	1
人生訓	3	健康	5	スポーツ医学	2
伝記	1	コンピュータ	4	スポーツ	6
紀行	1	社史	3	ゲーム	1
講演	2	通信販売	1	話し方	1
公務員試験	1	不動産	2	語学	14
経済	1	マーケティング	1	小説、エッセイ	29
経営	3	漫画	2	視聴覚	5
簿記	3	音楽	1	統計書	1
金融	6	映画・ドラマ	3	学校案内	1

利用状況（図書）

貸出回数…231回

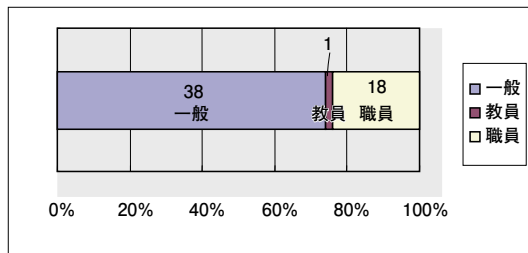
<貸出状況>

[学生]（学科学年別）



※新学部開設により、平成17年度は公共経営学科・商学科は1回生のみ、流通学科は2～4回生という構成になっています。

[学生以外の貸出比率]



<ベストリーダー>

タイトル	貸出回数
フライ、ダディ、フライ	12
痴漢男 = chikan otoko	10
終戦のローレライ 第1巻	8
「株主優待」ではじめる〇得（まるとく）生活	8
反自殺クラブ	8
亡国のイージス 上巻	8
さくら	6
日商簿記1級：工業簿記・原価計算	6
終戦のローレライ 第2巻	6
亡国のイージス 下巻	6
日商簿記1級：工業簿記・原価計算	5
天使のナイフ	5
終戦のローレライ 第3巻	5
終戦のローレライ 第4巻	5
TOEIC公式ガイド&問題集：日本語版	4
ジャンル別“売れる”アフィリエイト商品500選！	4
プロ野球をここまでダメにした9人	4
不動産投資を始める前に読む本	4
容疑者Xの献身	4

リクエスト図書は特にコーナーを設けず、他の本と一緒に並んでいます。上表中、最多貸出記録の『フライ・ダディ・フライ』は図書全体では11位です。（ちなみに、図書全体の最多貸出回数は『電車男』の19回でした。）

リクエスト用紙は館内に置いています。提出先は2階カウンターです。詳しくは利用案内をご覧ください。皆さんからのご要望をお待ちしています。

レファレンスに関するお知らせ

—6階 参考図書コーナーについて—

調べ物の際に利用する「参考図書」のコーナーをより活用し易くするため、従来一緒に並べられていた資料を種類別に配置換えしました。今回は「種類別に配置されたコーナー」についてご案内します。

法規集

「法規」とは、「憲法・法律・命令・規則またはそれらの規定」をいいます。(広辞苑 第5版)

図書館では追録(加除式=バインダーに新しい分を追加していく保存方式)で各分野の法規集を保管しています。

『判例体系』(第一法規出版)

『会計法規集』(中央経済社)

『文部科学法令総覧』(文部科学省)

『体育スポーツ総覧』(ぎょうせい)

などが配置されています。

政府刊行物コーナー

政府および自治体が発行している『白書』『統計』『報告書』『国勢調査報告書』などが置かれています。自治体発行の資料には、

『大阪府統計年鑑』

『大阪経済白書』

『東大阪市統計書』などがあります。

年数の経過によって利用度の低下した資料は、5階の参考図書コーナーに配架されています。

大型図書コーナー

世界地図・日本地図・美術全集など、特にサイズの大きな図書がここに置かれています。

「世界・日本の地図」コーナーには、

『世界大地図帳』(平凡社)

『エアリアマップ』(昭文社)

(各都道府県の都市地図)

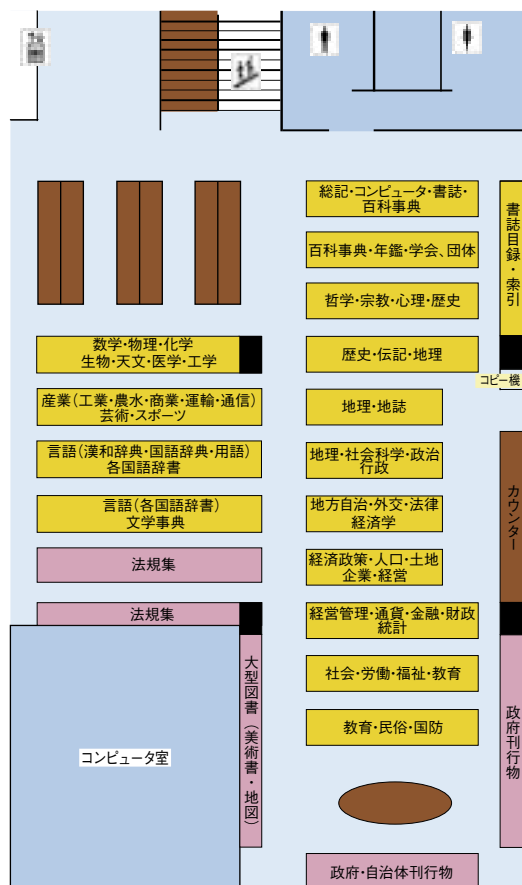
『関西道路地図』(昭文社)などがあります。

「美術全集・画集」コーナーには、

『世界の美術館シリーズ』(講談社)

『世界美術大全集』(小学館)

『原色 日本の美術』(小学館)などが置かれています。



参考図書コーナーにある資料は貸出できません(一部の大型図書をのぞく)ので、取得した情報を持ち帰りたい時には、カウンター横のコピー機をご利用下さい。料金は下記の通りです。

モノクロ	1枚 10円 (A3のみ20円)
カラー(6階のみ)	1枚 40円 (A3のみ80円)

各資料の利用方法については、お気軽にカウンターにご相談下さい。

図書館インフォメーション

◆図書館ホームページ リニューアルのお知らせ

このたび、図書館のホームページが一新されました。動画を含む図書館案内や皆さんの学習に役立つツールなどが見た目にも楽しく配置されています。是非訪れてみて下さい。URLはこの頁の最後に掲載されています。

◆「年間ベストセラー」を新着図書コーナーに展示しました

本年1月～4月末の期間、読書のきっかけ作りを目的として、2階新着図書コーナーに『読売新聞』（2005年12月21日夕刊）に掲載された「年間ベストセラー」（2004年12月～2005年11月、上位20位、トーハン調べ）のコーナーを設け、これらの図書を紹介・展示しました。期間中ほとんどの図書が次々と貸し出され、棚に本が戻る間もないほどの好評となりました。今後もテーマを変え、色々なコーナーを設置する予定です。

◆平成17年度下半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです（教員名50音順、敬称略）

※配架場所は、本学教員著書コーナーです。

【中津孝司】『クレムリンのエネルギー資源戦略』/中津孝司著. 同文館出版, 2005.7

【八尾 晃】『情報・ビジネスに役立つeコマースの基礎』/八尾晃, 奈良順司著. 東京経済情報出版, 2005.9

◆図書館への入館は学生証が必要です

不携帯の場合、その日は視聴覚を含む資料の貸出・コンピュータの利用ができなくなり、1ヶ月に3回忘れた場合は次回持参するまで入館禁止となります。学生証は大切な身分証明書です。常に身につけておきましょう。

◆卒論作成用の特別貸出について

4年生の皆さんは、卒業論文作成および教育実習期間中のための特別貸出ができます。延長手続きを行わずに1ヶ月借りることができます。希望者は貸出時にカウンターまで申し出て、手続きを行って下さい。

◆夏期休暇期間中の長期貸出について

夏休みの学習・研究用に長期貸出サービスを行います。実施期間中は図書の貸出すべてに適用されます。手続きは通常どおりです。詳細はポスター・掲示板でお知らせします。

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

●は休館日です。（開館時間：月～土 9：00～20：00）

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第28号 平成18年5月31日 発行 大阪商業大学図書館
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話(06)6781-5280 FAX(06)6781-0089
e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス : <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928